



ピッポ新聞

2006

12

No.216

年間購読料 (送料込み) 1500円

編集・発行 伊藤俊男

子どもの本専門店

ピッポ

〒424-0886 静岡市清水区草薙1-6-3

TEL & FAX 0543-45-5460

URL <http://www.pippo.co.jp>E-mail itoh@pippo.co.jp

渡辺茂男さんのこと

と

灰谷健次郎さんのこと

渡辺茂男さんの訃報に11月22日の静岡新聞の夕刊で接した翌日、今度は灰谷健次郎さんの訃報をテレビで知った。少し前には長新太さんだった。今年、この国の子どもの本の世界では、惜しまれる人を立て続けに失ってしまった。

渡辺茂男さんと聞くと、『しょうぼうじどうしゃ じぶた』の作者として、あるいは『どろんこハリー』や『かもさんおとおり』や『すばらしいとき』の訳者としての渡辺茂男さんを、また、子どもの本について語った著書を思い浮かべる人もいるでしょう。

渡辺茂男さんの仕事の足跡をたどれば、いままながら子ども本の世界に残したその足跡の大きさや、偉大さを認識させられる。

渡辺茂男さんの作品で、印象深いのは次の2つの作品である。

『すばらしいとき 絵本との出会い』(大和書房・現在品切れ中)がまず浮かんでくる。これは渡辺さんが絵本『すばらしいとき』を翻訳するまえに作者マックロスキーを訪ねたときのことを綴ったエッセイだが、その豊かな文章と共に、マックロスキーの島での暮らしぶりや、家族のことなどについて語ることで、絵本の訳者

としての姿勢が伝わってくる。あの絵本『すばらしいとき』の詩情豊かな翻訳の文章がどうして生まれたのかを、このエッセイを読むことで大いに納得したものだ。

ほくはこれとても秀逸なエッセイだと思うし、好きである。

それと、もう1冊は『寺町三丁目十一番地』(福音館書店)だ。

この本が何故好きかと言えば、本の舞台が静岡市で、しかも偶然、ほく自身が子ども時代の一期、この作品に描かれている町のすぐ近くで暮らした経験があるからだ。もう、まったく個人的な理由なんだけどね。

これは、静岡市出身の渡辺さんが、その子ども時代の体験を家族を中心に描いた物語。

渡辺さんがこの物語で語っている時代は1940年前後の静岡の町のできごとだ。ほくもこの物語から8、9年後、終戦から少しした頃(4歳から小学校5年生まで)に、この物語の中心になる寺町(戦後はこの町名はないが?)のすぐ近くの駒形3丁目というところに住んでいたのだ。

物語に出てくる感応寺というお寺や、「お命講」という章の感応寺のお祭りの「おめいこのかんざらし」というかけ声(?)はほくの記憶にもある。だから、とても親しみを感じている作品なのだ。

太田大八さんが描いた、この本の見返しの地図(実際とは違った部分もあるが)の中にある桜湯というのは、ほくの記憶の中にも確かにあり、ほくの住んでいた数軒先には第二桜湯もあっ

たな。なんてこと思い出しながら読むと格別な親しみを感じるのである。

でも、残念ながら、この『寺町三丁目十番地』は現在品切(最終刊は1997年18刷)で、重版が待たれるところである。

この作品は、生きいきとした家族の物語として、現在の私たちが失ってしまった「何か」を思い出させてくれる。大人にも子どもにもおすすすめしたい1冊である。

残念ながら、渡辺茂男さんにおめにかか
る機会を得ることができなかつたが、灰谷
健次郎さんには数度お会いしたことがある。
なかでも忘れられないのが、講演をお願
いしたときのことだ。

ぼくが関わっていた「しずおか演劇祭」
の出し物の一つとして、ハンディキャップ
のあるひと(脳性マヒ)の「語り」と、灰
谷さんの講演をジョイントして一つの舞台
を創ったときのことだ。

ぼくは彼女の「語り」に感ずるところが
あつて、彼女に灰谷さんの作品に挑戦して
みないか依頼したのである。彼女はやつて
みると言い、「チューインガム一つ」とい
う詩を選んだのであつた。これを半年かけ
て取り組むことになったのである。

ところが、途中で彼女から、「と言って
も施設のスタッフから)どうしても全部覚
えられないので、作品を少し省略させて欲
しいという連絡がきた。ぼくは困つたなど
思つたが、とにかく灰谷さんへ連絡をした。

灰谷さんはたしかまだ、あの時は淡路島
に住んでいたのだつたと思うが、電話でそ

のことを伝えた。

そのときの灰谷さんの言つたことが未だ
にぼくの耳元に残っている。「じゃー、や
めとつてください。丸ごとがぼくの作品な
んだから」

灰谷さんには彼女がどういう人か、そし
てどんな舞台をぼくが創りたいかは伝えて
あつて、了解を得たうえのことだつたので
ある。

しかし、作者からこう言われてしまつた
ら、もうこれは、もう一方を説得するしか
ないのだ。

奈良県にあるその施設に出かけて(最初
に頼みに行つたので2度目の訪問だつた)、
彼女に再度取り組んでもらつたのだ。

ぼくはそのとき、もう完全でなくなつて、
彼女の存在を「丸ごと」舞台上で表現できれ
ば良いと考えたのだつた。結果、彼女は舞
台で見事に自分の「チューインガム一つ」
を語ってくれたのだ。

灰谷さんも、とてもほめてくれた。彼女
はちやつかり、「この作品を今後自分のレパ
トリーに入れて他でも語ることができると
うに、灰谷さんから許可を得たのであつた。

灰谷さんはあのとき、ただ作家として自
分の作品に対する考え方でおつしやつたの
か、彼女の再挑戦を間接的に促すために
「やめとつてください」とおつしやつたの
か今となつては知ることができない。

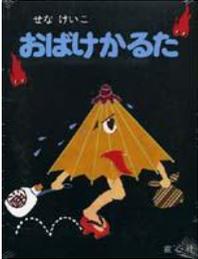
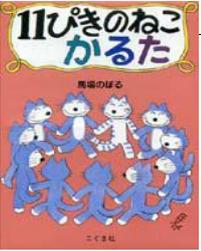
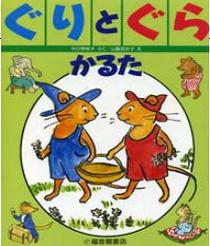
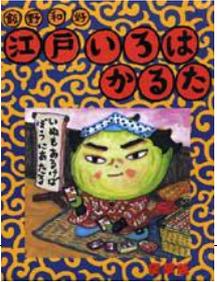
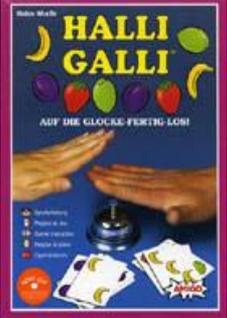
灰谷さんを思うとき、ぼくはこのことが
一番に思い出されるのである。

お二人のご冥福をお祈りいたします。

| | | | | | |
|---------------------------------|-----------------------|--------------------|--------------------------------|-------------------|---------------------|
| ぐりとぐらの カレンダー | 中川李枝子 山脇百合子 | 1200円 福音館書店 | 林明子カレンダー ブック 2007 | 林明子・絵 | 950円 福音館書店 |
| 森へようこそ Songs of Nature | 村上康成・作 | 1575円 ユニ オンサービス | 森へようこそ 卓上版 | 村上康成・作 | 1260円 ユニ オンサービス |
| カレンダーのは らうた2007年 | 工藤直子・詩 穂手浜孝・版画 | 1785円 HOTEHAMA | ターシャテュー ダーのカレンダー | オフィシャル版 | 1680円メディ アファクトリー |
| ダヤンのカレン ダー | 池田明子・作 | 1050円 ほるぷ出版 | The Original Peter Rabbit | ベアトリクス・ ポター・絵 | 1995円 F・Warne Co |
| Flower Fairies Calender 2007 | Cicely Mary Barker | 2583円 | The Secret Garden | Smith & Hawken | 1890円 |
| 明日天気になあ れなっちゃんの四季 | 伊藤八枝・イラ スト | 1050円 ユニ オンサービス | Flower Garden 2007 Calender | 平野恵理子・イ ラスト | 1365円 ユニ オンサービス |

2007年カレンダー

冬の夜はやっぱりカルタや双六やカードゲームだよね!

| | | | |
|---|--|--|---|
|  <p>「おばけかるた」 せなけいこ・作 1260円 童心社</p> |  <p>「日本の昔話かるた」 小澤俊夫・監修 赤羽末吉・ 絵 1260円 福音館書店</p> |  <p>「せかい いっしゅうかるた」 山本省三・文 瀧原愛治・絵 1000円 世界文化社</p> |  <p>「へんてこかるた」 長新太・絵 石津ちひろ・ 文 998円 小学館</p> |
|  <p>「11ぴきのねこ かるた」 馬場のぼる・作 1260円 こぐま社</p> |  <p>民衆社 「だじゃれ ゆうえんち いろ はかるた」 内田麟太郎・文 川端理絵・絵 1050円</p> |  <p>「ばばあちゃんのくいしん ぼう カルタ」 さとうわきこ・作 1050円 福音館書店</p> |  <p>「ぐりとぐらかるた」 中川李枝子・文 山脇百合 子・絵 1050円 福音館 書店</p> |
|  <p>「ばばあちゃんの ぼうけんすごろく」 さとうわきこ・作 550円 福音館書店</p> |  <p>「ねぎぼうずのあさたらう」 道五十三次 すごろく」 好・作 550円 飯野和 東海</p> <p>福音館書店</p> |  <p>「どうぶつことばあそびか るた」 多田ヒロシ・作 1260円 こぐま社</p> |  <p>「江戸いろはかるた」 飯野和好・作 1155円 金の星社</p> |
|  <p>「ハリガリ」 ドイツ製 2940円 「ハリガリ・ジ ュニア」 2940円 AMIGO社</p> |  <p>「ピーマン村すごろく」 中川ひろたか・文 村上 康成・絵 童心社 上製版 1050円 普及版 580円</p> |  <p>「おばけすごろく」 せなけいこ・作 童心社 上製版 1050円 普及版 580円</p> |  <p>「じごくのそうべいすごろく」 田島征彦・絵 童心社 上製版 1050円 普及版 580円</p> |

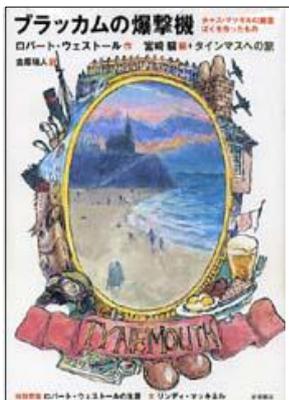
ドイツの家庭で楽しまれている
ゲームはいかが

| | | | |
|--|--|---|---|
| <p>「すすめコブタくん」 ゲームは単純なサイコロのゲーム。約束事がありこれがおもしろい。 4才ぐらいから 4410円</p> | <p>「虹色のへび」 カードをめくり、同じ色のへびの頭としっぽが繋がったらそのへびをもらいます。最後にカードの多い人が勝ち 3才 1470円</p> | <p>「カーリングゲーム」 交互に自分のコマを指ではじいて、最後にサークルの中心にコマを進めたら得点します。4才から 7140円 (木製)</p> | <p>「コンタクト・ゲーム」 道路や鉄道、川の描いているカードを上手く繋いでいくゲーム 5才ぐらいから 2625円</p> |
| <p>「クイップス」 色と数に興味を持ち始めたら、楽しく遊べます。偶然性が左右することから、年下が勝つことも! 3才位から 3780円</p> | <p>「メルクマール」 記憶力と集中力が必要なゲーム。場にあるカードのふせられているのをいいあ当てていく。 4才ぐらいから 1470円</p> | <p>「ミラーゲーム」 2この立方体に描かれた模様を鏡に映しながら、カードと同じ模様を早く作った方が勝ち 4才ぐらいから 3780円</p> | <p>「クラウン」 サイコロを振って、自分のピエロを作ります。出来たピエロの身長を競います。 3才ぐらいから 1575円</p> |

(紹介のアイテムすべて消費税込の値段です)

ねー、この本読んだ

『ブラツカムの爆撃機』(ロバート・ウェストール・作 金原瑞人・訳 宮崎駿・編 + タインマスへの旅 1680円 岩波書店)



この本は表題作の他2編の短編に加えて、宮崎駿が前編と後編に分けて著者を訪問したという想定で「ウェストール幻想 タインマスへの旅」というマンガを掲載している。これは実際に著者ウェストールにはあつたことのない宮崎駿が、ウェストールへのオマージュ

を込めて描いたものだそう。このマンガの前編はこの本を読むための入門の解説書となってくれるし、後半は読後考える視点をあたえてくれる。マンガの中で宮崎は、著者との架空の対話でイギリスの戦闘爆撃機の乗員である若者(この物語の主人公たちは爆撃機の乗組員である)と日本の神風特攻隊の若者の死者の数を比較したりして、戦争を客観的にまたその背景を考えさせてくれる。

物語は、毎晩ドイツ領にとつともない数

で爆撃機が爆撃を繰り返すイギリス空軍の様子を中心に描かれている。繰り返す爆撃で、ドイツ空軍との戦闘で仲間が戦死していく。これに直面する若者の心理や自分たちが爆撃するドイツの民衆の事を思う心理などが描かれている。

『天と地の守り人 第一部』(上橋菜穂子・作 二木真希子・枝 1575円 偕成社)



「精霊の守りひと」から始まった物語は第三部。新ヨガ王国の王子チャグムはヨガ王国がタルシュ帝国の枝国になることを拒むため、ロタ王国との同盟を求めて一人危険な旅に。危ういチャグム王子を探して女用心棒バルサはその痕跡を追っていく。再開した一人だったが・・・

いよいよ物語は終幕へ向かって展開していく。

編集後記

先日新聞を読んでいたところに飛び込んできた。それは「もはや戦後ではなく戦前である」というのである。「戦後民主主義」などと、ぼくらはなにかにつけて「戦後」という言葉をつかってきたが、先のイラク戦争に自衛隊も参戦したし、本当に我々は次の戦争への道走り始めたのかもしれないのだ。憲法改悪反対!